

自宅療養者の現地での 診察のポイントと感染対策

国立病院機構長良医療センター

呼吸器内科 加藤達雄

感染管理看護師 安江亜由美

自宅療養における問診のポイント

- 基礎疾患、肥満の場合BMI、妊娠の確認
- 自覚症状の問診
 - 呼吸困難（低酸素の割に自覚が乏しい場合もあり）
 - 発熱（解熱剤使用状況）
 - 咳（痰は多くないことが多い）
 - 胸痛、関節痛
 - 食欲低下
 - 下痢
 - 味覚・嗅覚障害（若い軽症者に多いが、遷延する）

自宅療養における診察のポイント

- 診察は最低限で

(自宅に届いているパルスオキシメーター、体温計を使用)

- 酸素飽和度、脈拍数をパルスオキシメーターで確認

(指によって低めに出る場合あり、予想より低いときは指を変えてみると、うまく測定できる場合あり)

SpO2 95% 可能なら入院適応あるか病院でチェック

SpO2 94% 入院が必要

→健康フォローアップ班と相談して、受診・入院調整

- 呼吸数 20回／分以上か、肩で息をしてるか？

- 体温

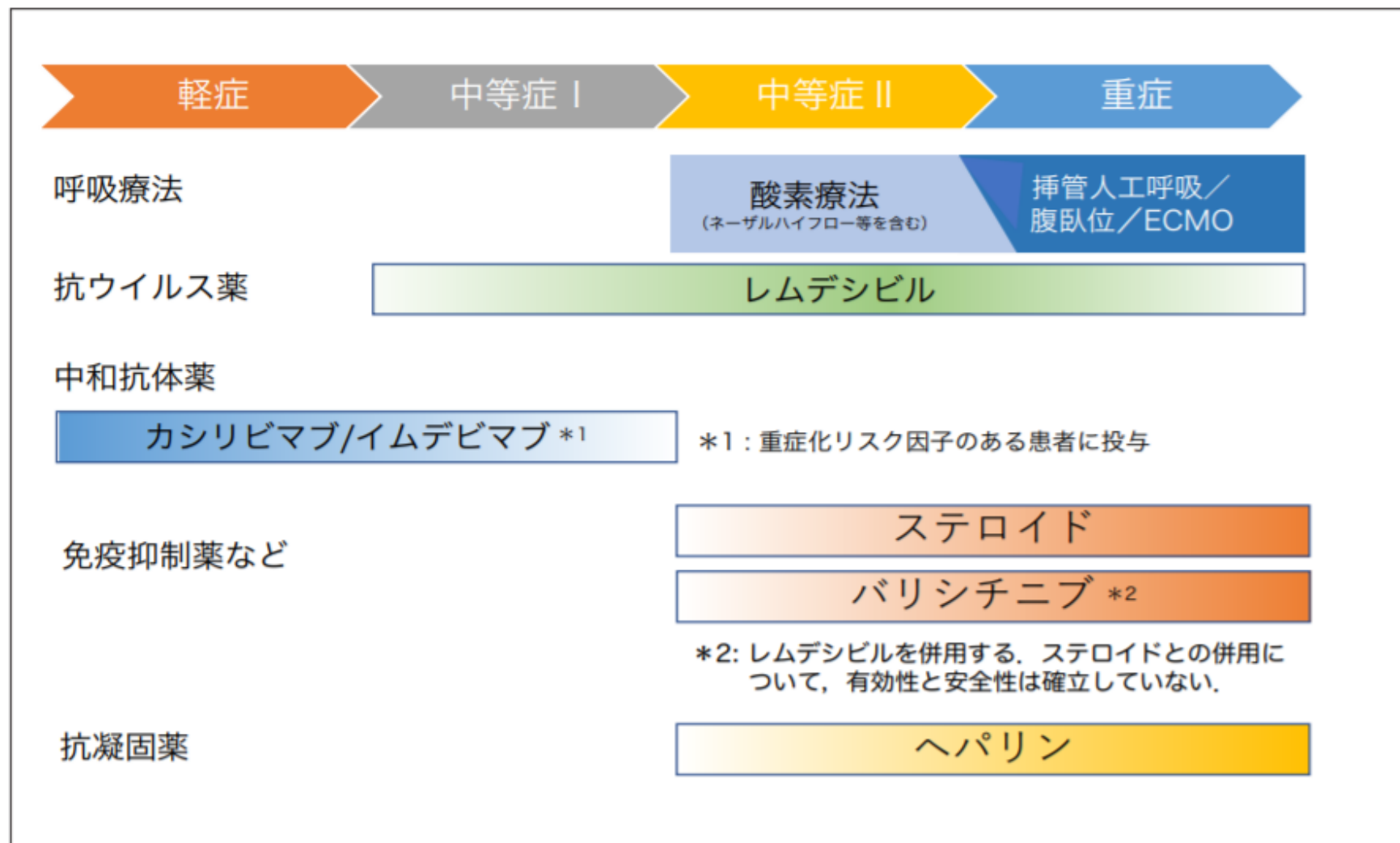
- 聴診はしなくてもいい、コロナ肺炎では異常な聴診所見なし
(持ち込んだ聴診器の汚染に対応が必要)

- 血圧測定は、重症者に限定してもいい 家の血圧計あれば使用
(持ち込んだ血圧計の汚染に対応が必要)

1. 重症度分類（医療従事者が評価する基準）

重症度	酸素飽和度	臨床状態	診療のポイント
軽 症	$\text{SpO}_2 \geq 96\%$	呼吸器症状なし or 咳のみで呼吸困難なし いずれの場合であっても肺炎所見を認めない	・ 多くが自然軽快するが、急速に病状が進行することもある ・ リスク因子のある患者は入院の対象となる
中等症Ⅰ 呼吸不全なし	$93\% < \text{SpO}_2 < 96\%$	呼吸困難，肺炎所見	・ 入院の上で慎重に観察 ・ 低酸素血症があっても呼吸困難を訴えないことがある ・ 患者の不安に対処することも重要
中等症Ⅱ 呼吸不全あり	$\text{SpO}_2 \leq 93\%$	酸素投与が必要	・ 呼吸不全の原因を推定 ・ 高度な医療を行える施設へ転院を検討
重 症		ICU に入室 or 人工呼吸器が必要	・ 人工呼吸器管理に基づく重症肺炎の2分類（L型，H型） ・ L型：肺はやわらかく，換気量が増加 ・ H型：肺水腫で，ECMO の導入を検討 ・ L型からH型への移行は判定が困難

図 4-1 重症度別マネジメントのまとめ



自宅療養における治療のポイント

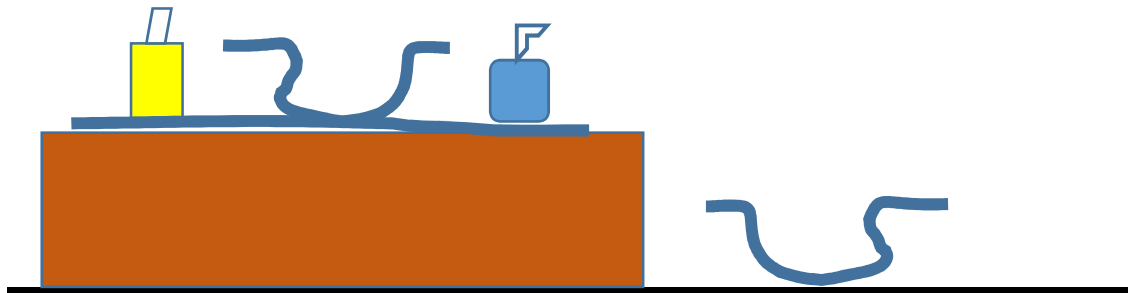
- 軽症の場合は、抗ウイルス薬やステロイドは適応なし
 - 発熱 ⇒ アセトアミノフェン
 - 咳 ⇒ デキストロメトルファン（メジコン）
 - 頭痛 ⇒ アセトアミノフェン、ロキソプロフェン
 - 嘔気 ⇒ ドンペリドン（ナウゼリン）
- 食欲不振 ⇒ ゼリーなど勧める
- 味覚・嗅覚障害 ⇒ 治療法なし 経過観察

自宅療養における感染対策

- あらかじめ患者、家族にマスクをしてもらい、換気を依頼しておく 玄関ドアを開錠してもらう
- ビニール袋を1枚広げ、その上に1枚持ち帰り物品を入れるビニール袋を広げる
- 手指消毒用アルコール、アルコールクロスを準備
- それと別にPPEを脱いで入れるためのビニール袋を広げる
- 玄関で手指消毒後PPEつける（近隣から見えにくい様に）

【PPE】 サージカルマスク、フェイスシールド、袖ありビニールエプロン、手袋、シューカバー（なければビニール袋で代用）、（キャップ）

髪が長い場合はヘアゴムでまとめ、キャップを被る

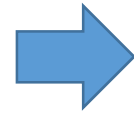
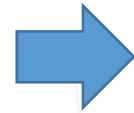


PPEを着ける順番

アルコール消毒



サージカルマスク



キャップ



手袋

フェイスシールド

袖付きエプロン

自宅療養における感染対策

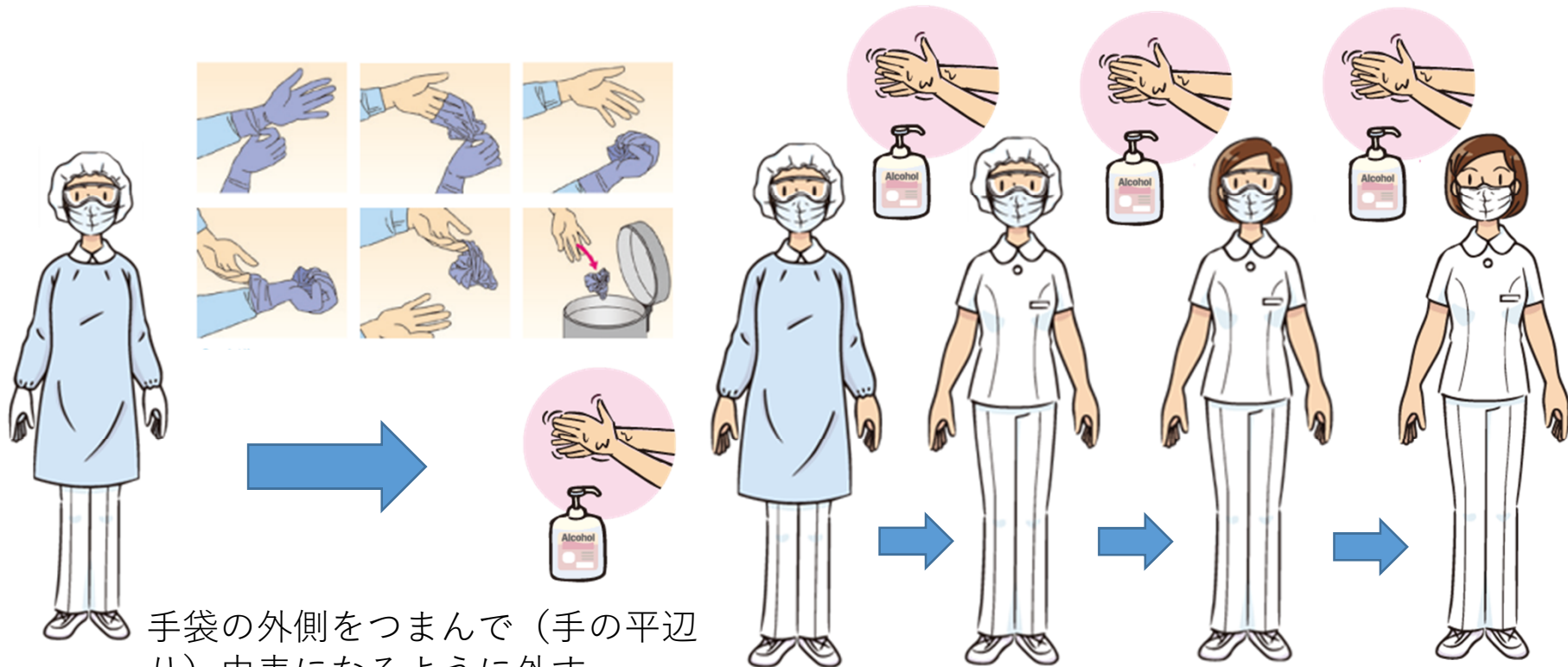
- 短時間で診察、持ち込むものは最低限にする
- 投薬する場合は、この際に説明
- 診察終了後、玄関でPPE脱ぎ、廃棄用のビニール袋に入れ、患者か家族に廃棄を依頼する

【順序】手袋→アルコール→シューカバー→アルコール
→エプロン→アルコール→キャップ

→アルコール→フェイスシールドを外しアルコールクロスで清拭

- 持ち帰る物品あれば、外側に触れない様に、もう一枚のビニールに入れ、外側が汚染しない様に持ち帰る
- 記録や電話連絡は、車に戻ってから行う
- 必要な内服などは、ポストイン、玄関において帰る
- 持ち込んだ物品（聴診器、血圧計）は、帰院後にアルコールでよく清拭する

PPEを外す順番



手袋の外側をつまんで（手の平辺り）中表になるように外す。
手袋を着用している手で外した手袋を持って丸める。
手袋を脱いだ手の指先を、もう一方の手首と手袋の間に滑り込ませ、そのまま引き上げるようにして丸め込み脱ぐ。

手指衛生した後に
シューカバーを外す